

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和6年度分)

<県の評価等>

施設所管部名 教育委員会

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県立熊野少年自然の家（熊野市金山町1577番地）
指定管理者の名称等	有限会社 熊野市観光公社 代表取締役 山本 方秀（熊野市井戸町654-1）
指定の期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	①少年自然の家条例第2条に規定する事業の実施に関する業務 ②少年自然の家の施設等の利用の許可等に関する業務 ③少年自然の家の利用料金の收受等に関する業務 ④少年自然の家の施設等の維持管理及び修繕に関する業務 ⑤少年自然の家の管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R5	R6	R5	R6	
1 管理業務の実施状況	B	B			<ul style="list-style-type: none"> ●施設修繕の優先度を定めた計画に基づき効率的な修繕を実施することで安全で安心な運営管理を行うとともに、可能な限り職員が修繕を実施することで経費削減に取り組んでいる。 ●利用者から寄せられた意見や改善提案を積極的に取り入れ、運営管理の改善等に努めている。 ●老朽化により安全性が失われつつある遊具などは早期に撤去している。
2 施設の利用状況	B	B			<ul style="list-style-type: none"> ●「県民の日」事業に併せて大型イベントに取り組むなど他団体とも連携し積極的に集客の機会を創出する工夫や東紀州各種メディアを通じてイベントの開催を伝える広報活動により、昨年よりも集客が増加した。 ●施設利用者満足度は99.7%となっており、利用者のニーズに対応している。利用者アンケートからも少年層からは体験活動や主催事業の充実度について、また、引率者からスタッフの対応の丁寧さや親身な姿勢について、多くの声が上がっており良好な利用状況が伺える。
3 成果目標及びその実績	C	C	+	+	<ul style="list-style-type: none"> ●成果目標については、延施設利用者数目標数27,500人に対して25,052人、定員稼働率についても、目標17.0%に対して12.1%となっており、ともに成果目標を達成できなかった。 ●一方で夏季の利用者数は児童生徒の宿泊者を中心に年々増加しており、令和6年度は6月～8月の合宿での利用者は4,323人を記録している。周辺施設や立地がスポーツ合宿に適していることを県内外へPRし、スポーツ基地としての呼び込みに力を入れてきた成果であり一定の評価ができる。 ●主催事業の実施、施設設備の維持管理、利用料金收受及び利用者への対応等、いずれも協定に定める事業計画書に沿った適切な管理運営が行われたことは評価できる。

※「評価の項目」の県の評価:

「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
 「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
 「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<ul style="list-style-type: none"> ●施設設備の老朽化に伴う修繕を計画的に実施し、専門性を有する維持管理業務は外部委託とするなど施設設備の安全管理に努めている。利用頻度の高い設備は、職員による日常点検を徹底し、緊急度の高いものは最優先で修繕を行うなど安心して利用できる環境整備を行っている。フィールドサーキットの撤去など老朽化が進んだ設備には迅速に対応している。また、利用者アンケートに寄せられた課題に対して速やかに対応策を講じ改善に取り組んでいる。 ●野外活動等の体験プログラムである「親子DEキャンプ」及び「マリンスポーツを体験しよう」など、幼児から高齢者まで幅広い層が参加可能な主催事業を開催している。また、紀南レクリエーション協会など地域の各種団体と連携した共催事業も実施し、施設の周知と利用者の拡大に努めている。 ●職員が複数の業務を執行できるような体制を整えたことで主催事業の充実が図られた。 ●成果目標である延施設利用者数、定員稼働率ともに成果目標を下回るようになったが、施設運営の質を維持するための参考指標(利用者満足度)は目標を達成していることから、指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。 ●引き続き安全・安心な施設運営を実施し、学校教育やその他の関係機関と連携した自然体験活動の充実に取り組むとともに、多世代における利用者の誘客や、地域の交流地点としての役割も今後期待できる。
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況			
①熊野少年自然の家条例第2条に基づく事業の実施に関する業務			
<ul style="list-style-type: none"> ・青少年及び社会教育関係団体の施設の利用、指導、利用許可、料金収受並びに関係者への研修等に関する業務を実施した。 ・利用団体にはオリエンテーションを行い、生活面の助言、創作活動及び野外活動等の講習を行い研修活動を支援した。 ・主催事業では、恒例のアサギマダラ観察会など悪天候やクマアラートの発令等で止む無く中止にした事業もあった。地元団体等と共催でユニカールなどのニュースポーツ大会、学童野球大会等を開催、また地域自治会とレクリエーションスポーツを通じて体験会を重ねニュースポーツの普及も行き、小学生から一般まで幅広く青少年の健全育成と生涯学習事業を推進した。 ・利用申請、利用許可及び利用料金収受等に関する業務については、取扱い基準、利用料金の納入方法を定め適正に運用した。 ・「イベントのご案内」を作成し、東紀州地域を中心に小学校へ配布し、施設PRに努めるとともに、ホームページを通じた情報発信(動画配信含む)を行った。また、地元CATV等を活用して主催事業のPRを積極的に実施した。他、スタッフブログにより、テレビや新聞では伝わらないく熊野少年自然の家のイマ>を伝えるなど情報発信の充実に努めた。 			
②施設及び設備の維持管理並びに修繕に関する業務			
<ul style="list-style-type: none"> ・感染症防止対策として実施してきた利用者退所時の布団天日干しを引き続き行った。 ・令和6年度の修繕費の支出額は3,440,448円を要したが、老朽化に伴う施設設備の整備を積極的に実施した。本年度においては、水道管中継区間での破損が確認され仮設配管の設置により応急処置を実施した。また、例年どおり緊急性を要する物件については、速やかに修繕を実施した。 ・短期(1年)及び中長期(3年以上)等の修繕計画を立て、大規模修繕については、県に報告し協議するとともに、小破修繕については、指定管理者において計画的に修繕を実施した。 ・令和7年度においては、合併処理浄化槽改修工事を中心に検討していく予定である。 			
③県施策への配慮に関する業務			
<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画研修会及び人権研修会に出席し、人権を尊重することの大切さ等について研修を受けた。 ・五條市立西吉野農業高校が当施設に宿泊し、梅収穫等の農業体験を実施した。令和7年度においても行う予定である。 ・鈴鹿市で開催された令和6年度東海北陸地区青少年教育施設協議会運営研究大会に職員3名が出席し、他施設職員との交流に努めるとともに、意見交換のなかで得た意見を参考に施設運営に活かした。 ・三重大学からの依頼で、昨年度に引き続き大学院教育実習生の教育実習期間の宿舎として利用いただいた。 ・三重県総合文化センターで開催された「地域『学』フェスティバル2024」に参加し、地元名産である那智黒石を活用したクラフト体験を実施した。 			
④情報公開・個人情報保護に関する業務			
<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年4月1日から施行している「三重県立熊野少年自然の家の管理に関する情報公開実施要領」に基づき実施しており、令和6年度は、開示請求の実績はなかった。 ・三重県が開催する情報公開・個人情報保護制度初任者研修会に職員を派遣し、制度の正しい理解と運用に努めた。 			
⑤その他の業務			
・特になし			
(2) 施設の利用状況			
<設定目標>		実績	
延施設利用者数	27,500名	延施設利用者数	25,052人
定員稼働率	17.0%	定員稼働率	12.1%
<ul style="list-style-type: none"> ・施設利用者の受入れについては、基本協定書第9条に基づき利用許可基準を定め、三重県行政手続条例及び三重県立熊野少年自然の家条例に基づき適正に処理した。 			

2 利用料金の収入の実績

<ul style="list-style-type: none"> ・利用料金収入目標額 5,786千円に対し、令和6年度実績 4,417千円であった。 ・学校クラブ、学校研修等で利用する場合、引率者に対し利用料金の減額を適用した。(利用料金の減免額 235,500円)

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R5	R6		R5	R6
指定管理料	43,264,289	43,734,000	事業費	1,766,565	1,591,438
利用料収入	4,728,438	4,417,700	管理費	43,975,734	43,206,558
その他の収入	465,577	677,688	その他の支出	2,698,509	2,676,744
合計 (a)	48,458,304	48,829,388	合計 (b)	48,440,808	47,474,740
収支差額 (a)-(b)	17,496	1,354,648			

※参考 ※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

利用料金減免額	235,500
---------	---------

4 成果目標とその実績

成果目標	延施設利用者数	27,500人
	定員稼働率	17.0%
成果目標に対する実績	延施設利用者数	25,052人
	定員稼働率	12.1%
(参考指標)	施設利用者満足度	90%以上
(参考指標に対する実績)	施設利用者満足度	99.7%
今後の取組方針	設置目的である「心身ともに健全な少年の育成を図る」という目的達成に向けて取り組みながら、新しい体験メニューの開発を目指します。また県内の小中学校への修学旅行誘致や集団宿泊研修、課外授業での利用促進の取組に努めます。また、引き続き感染症対策等にも十分配慮した施設運営を展開していきます。	

5 管理業務に関する自己評価

評価の項目	評価		コメント
	R5	R6	
1 管理業務の実施状況	B	B	事業実施に関するものは、指導系職員を中心に内部で検討し、事業終了後は直ちに職員全員で反省会を行い、反省点の改善に努め、次回の開催に備えた。施設設備の維持管理については、職員で対応できる修繕等については、自分達で行うなどコスト削減に努めた。ただし、専門的技術を要する事業については、外部委託とした(令和6年度は水道管破損修繕等)。また、施設の情報発信として、実施した主催、共催事業の活動報告を地元紙、及びスタッフブログ等において掲載し、今後の参加を呼び掛けた。
2 施設の利用状況	B	B	昨年度と比較して延利用者が4,000人強の増加となったが、成果目標には達することができなかった。天候不良による主催事業の中止や例年連泊する団体のキャンセル等の難局もあったが、県内外へ積極的に施設の魅力を発信したことによる新規利用団体の獲得につなげることで一定の成果を出すことができた。
3 成果目標及びその実績	C	C	上記のとおり、成果目標には及ばなかったのは残念だったが、今後は営業活動に力を入れ、宿泊体験研修、修学旅行先、また、各種団体の合宿先としての利用促進に努めていきたい。

※評価の項目「1」の評価 : [A] → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
 [B] → 業務計画を順調に実施している。
 [C] → 業務計画を十分には実施できていない。
 [D] → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価 : 「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
 「B」 → 当初の目標を達成している。
 「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
 「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

<p>総括的な評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新規の主催事業の開催にも力を入れるとともに、令和7年度においては成果目標の達成をめざして、営業活動等にも力を入れ取り組んでいきたい。 (令和7年度成果目標 施設延利用者数 27,500人 定員稼働率 17.0%) ・主催事業の開催にあたっては、平成25年度から実施している東紀州エリアや、隣接する和歌山県新宮市内の全小学校へのチラシ配布を継続するとともに、例年通りホームページやZTV等のメディアを通して募集活動を行った。(県内中勢、北勢、大阪、滋賀からも申込みがあった) ・開催事業報告を地方紙等に掲載することで、施設利用のあり方及び認知度アップに努めるとともに、ブログ等においても情報発信に努めた。 ・「利用者アンケート」は例年どおり宿泊利用者、日帰り利用者、主催事業参加者の3通りに分けて行い、入所の全団体を対象に要望を把握し、直ちに改善できる事は対応し、サービスの向上に努めた。また、コピー用紙の両面利用や封筒の再利用、個人使用の消耗品への名前の記入、また昼休みの消灯等徹底したコストの削減に努めた。 ・施設の設置目的である小中学校の宿泊研修の場として、県内外からも利用していただけるよう引き続き営業活動にも力を入れて取り組んでいきたい。また、スポーツ、文化クラブの合宿基地としての役目も担っていきたい。 ・施設の維持管理については、修繕計画を立て優先順位をつけて修繕を実施した。令和6年度においては水道管破損修繕等を実施した。 ・利用者の安全確保のため、「危機管理マニュアル」「災害対策応急マニュアル」を作成し、職員全員が携帯し備えた。迅速、的確な対応をすることができるよう心がけるとともに、職員を中心に防火防災講習を実施した。また、男女共同参画研修会及び人権研修会に出席し、人権について研修を受けた。 ・業務の執行は、事業計画書に示された内容に基づいて取り組むとともに、職員一人ひとりが複数の業務を執行できるように体制づくりを行った。また、「目標達成シート」を各自で作成し、明確な目標を掲げ達成に向けての取組のプロセスや結果を検証し、評価・改善しながら効率的で効果的な運営に努めた。
---------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------